

Promote consciousness transformation

意識変容を促す

緑や空間を備えた公園をはじめとする都市緑地は、その存在を日頃から意識されることは少ないでしょう。なぜ都市には緑地が必要なのか、なぜまちには公園があるのか、都市緑地がウェルビーイング向上に役立つことを伝え、市民一人ひとりが公園の価値に気づき様々な活動に自分事として参加するように促します。自分事として参加することで自己肯定感が高まり、ウェルビーイング向上につながります。

具体例 Concrete plan

公園の新たな職能・パークトレーナー

イギリス・PARKS COMMUNITYのGreen Social Prescribingは公園で投薬の代わりに芸術・自然・スポーツを処方する活動です。プログラムは緑地を楽しむように考えられ、そこでスキルを学び、ほかの参加者と絆を深め、経験を共有することで人とつながる機会を得ます。有力な社会的処方として、NHS（イギリスの国営医療制度）から注目されています。公園からの健康づくりネットでは、社会的処方者として公園へのパークトレーナーの配置を進めています。様々な目的で公園に来る人々に気軽に声をかけ、ちょっとした相談相手になる人材がパークトレーナーです。公園に行けばいつでも誰かと話せる、相談できる、だから行動につながる、そうした好循環を生み出す専門家です。



意識変容は一人ひとりに関わるものですが、一人ひとりが自ら気づくことは容易ではありません。社会的処方として緑の効果・ウェルビーイングの意義・社会課題とその解決のための方向性などに気づき、自分事として都市緑地に近づく支援をすることが必要です。このための情報提供・支援体制・きっかけとなる活動の強化など、社会的処方者としてのパークトレーナー等の専門家の配置が有効です。

Policy 2
方針

Harnessing the local community power

地域コミュニティパワーを活用する

これまでも公園緑地では維持管理や運営、ガイドなど様々なコミュニティ活動が展開されてきました。また伝統的な地縁によるコミュニティだけでなく、近年はSNSにより近隣に限らないコミュニティや活動特化型のコミュニティも展開しています。こうしたコミュニティ活動は公園緑地を活性化させることはもちろん、コミュニティ活動を行うことそのものも人々のウェルビーイング向上効果を発揮します。

このため、さらなる地域コミュニティの参画・関与を促し、公園緑地の管理運営の充実とウェルビーイング向上につなげます。地域の祭り等の歴史文化事業といった昔ながらの活用の活性化のほか、地域産業や学校等との連携やSNSでつながる新たなコミュニティ活動の推進が期待されます。また、こうしたコミュニティを牽引する人材の発掘と活用、コミュニティ活動拠点の配置と自主的管理も重要です。



具体例 Concrete plan

園むすびプロジェクト

日本一小さな村・富山県舟橋村の京坪川河川公園では公園を子育ての拠点として、地元の造園業者が維持管理を超えた活動で成果を挙げています。ここでは公園が子育て世帯の増加という命題に応えるべく、“公園をまんなかにいろんな縁をむすぶ”ことを目標に『園むすびプロジェクト』に取り組んでいます。地元小学生と様々な世代の地域住民、自治体や、こども園、企業、NPO団体などが連携して「みんなの場所を、みんなで育てる」活動を広げています。地元小学生のアイデアがクラウドファンディングにより実現し、また定期的にイベントを開催するなど、公園が地方創生に貢献しています。